

ワンポイントアドバイス

ぜんそく 気管支喘息

川口市立医療センター

呼吸器内科

おぞえ

尾添

りょうすけ

良輔



気管支は肺に空気を送るための通り道（気道）で、パイプのような役割をしています。気管支喘息は、気管支が慢性的に炎症を起こし、空気が通りにくくなってしまいう病気です。息苦しさや痰の増加などの症状があり、特に夜間から早朝にかけて起こりやすいことが特徴です。日本では子どもの8～14%、大人の9～10%が喘息を患っているとされています。

気管支喘息と診断された場合の治療の基本は「症状が起こらないように毎日行う治療」と「症状や発作が起きたときに行う治療」に分けられます。前者はステロイドや長時間作用する気管支拡張薬の吸入を中心に気管支の炎症を抑え、後者は短時間で作用する吸入薬やステロイドの内服、点滴投与で狭くなった気道を広げます。症状が無くなれば喘息は治ったと思われるかもしれませんが、気道の炎症は続いているので、症状が起こらないように吸入薬を継続することが重要です。

また、喘息の5～10%は重症喘息とされ、高用量の吸入ステロイドを含む複数の長期管理薬を用いてもコントロールが困難な喘息と定義されています。重症喘息の診断においては、吸入が正しく行えているのか、本当に喘息なのかを改めて確認する必要があります。

近年は、免疫機構に直接働きかけて治療を行う生物学的製剤と呼ばれる新たな治療薬剤が多く登場しており、当院では重症喘息のかたに対し、こうした治療も行っています。